

日本経済大学 数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム
令和3年度 自己点検・評価

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>経済学部・経営学部の両学部において、基幹システムに蓄積されている履修・取得状況の分析を行った。令和3年度は令和2年度と比較して、当教育プログラムの履修者が約1.8倍に増加することができた点で一定の効果をあげることができた。一方で、修了者の全学生に対する比率は15%に留まっており、さらなる向上が求められる。</p>
学修成果	<p>本教育プログラムでは各科目の定期試験において、学修内容の習得度を計測している。単位取得ができたものは、本教育プログラムが目的としている「情報社会において、数理・データサイエンス・AIを活用することの意義や最新動向を知る」「データを活用するための技術を学び、ビジネス実務に応用するための知識を習得する」点について、習得したものとみなすことができる。これまでの履修者が851人に対し、プログラム修了者は605人であり、修了率は71.1%となっている。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本教育プログラム受講者全員に対して授業アンケートを実施しており、学生の理解度を分析している。アンケート結果によると、本教育プログラムの学生の理解度は平均3.4（4点満点）で、全授業平均の3.2を上回っている。また、授業外学習では、本教育プログラムの履修者は2～3時間の予習・復習をしている者が最多で、この点でも全授業の最多である1～2時間の予習・復習時間を上回っている。この結果から、一般的な授業に比べて学生が意欲的に取り組んでおり、高い理解度を獲得していることがわかる。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本教育プログラム受講者全員に対して授業アンケートを実施しており、NPS（Net Promoter Score）の手法で他者への推奨度を評価している。本プログラム履修者の推奨率は31.2%で全授業平均の40.1%を下回っている。また、批判率は44.6%と全授業平均の37.2%を上回っている。これは他の理数系科目の傾向と類似しており、学生のコメントから推察するに、内容の難しさが他者への推奨度を下げているものと思われる。よりわかりやすい説明方法や資料の工夫等を導入することで改善を行いたい。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本教育プログラムを構成する2科目については、これまでは運営組織やゼミ担当教員からの推奨で履修者数の向上を目指してきた。一方で、現在の取り組みで大きな向上が見込めない点が課題となっており、令和5年度から1年次の登録必修とすることを検討している。登録必修化にあたっては、数理・データサイエンス・AI教育の内容について各専門分野からの観点も取り入れ見直し等を検討し、より学生の履修を推進していく。</p>
学外からの視点	

<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>まだ卒業生はいない。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本学が参画しているFDC（福岡地域戦略推進協議会）において、地域におけるデータ・AI活用の課題をヒアリングしたうえで本教育プログラムの設計に活用している。また、令和4年度からは本協議会にデジタル部会が設置され、本学から2名の教員が参加する。当部会において、本教育プログラムの紹介を行い、意見収集を実施したい。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本学は経済学部・経営学部で構成されていることを踏まえた工夫を行っている。ビジネスの事例や実際の企業で使われているデータを比較的入手しやすいことから、実際の事例・データを例示した授業を行い、習得する知識がどのようにビジネスに応用できるかを学びやすくしている。</p>

<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>本学は経済学部・経営学部で構成されていることを踏まえた工夫を行っている。数学について必ずしも得意ではなかった学生が一定数いることから、データサイエンスに関わる中学・高校領域の数学知識を復習しながら授業を実施している。また、単元ごとに実際の計算を行う問題演習の回を入れることで、つまずきを解消しながら授業を履修できるよう工夫を行っている。</p>
---	---